

「1%の閃きと99%の汗」

合 掌

みなさ〜ん、お元気ですか！？元気があれば何でも出来る！！

さて今月は、世界的な発明王トーマス・エジソンの「1%の閃（ひらめ）きと99%の汗（努力）」と自身を評した言葉について考えてみたいと思います。

人生は可能性に満ちた我を発見する旅であります。そこにはリスク（危険）もあればチャンスもある。予期せぬ困難も待ち受けています。人生という名の旅には失敗はつきものです。しかし、未知の世界に一步踏み出す勇気がなければ、成功への道は開けません。何が起こるか分からないのが人生で、それだけにチャレンジ精神をかきたてられますよね？。未知の分野に足を踏み入れれば、失敗は当たり前。失敗なくして成功もありえない。また失敗ばかりしていても悲観する必要はまったくないのです。生きている限り敗者復活は続くのですから。生きるということは未知の世界で未見の我を発見する旅であります。失敗するからこそ、次に失敗しない答えが見つけれられるのです。

エジソンは自身の人生を「1%の閃きと99%の汗」と評しました。

ここで、おもしろい逸話を1つ紹介しましょう。特に彼が苦しんだのは白熱灯の発明だったそうです。実験回数は二千回以上にも及びました。失敗の日々が続き、嫌気がさした助手がこう言いました。

「もうがっかりだ。嫌になってしまった！」と弱音を吐いた時、エジソンはこう語ったといます。「失敗によって、みんな何かを学んだはずだ。確実なのは、この方法では駄目だということが分かったことだ。失敗は一步成功につながったということなんだ」と。

エジソンにとって失敗は発見でもあったのです。失敗は成功への通過点でしかなく、いちいち悲観に暮れている愚かな人間ではなかったということがいえます。

一步踏み出せるか出せないかは、その人の人生を大きく変えます。その思い切りと大胆さは、頭で考えていては出てきません。

エジソンは言ってます。「ほんの一瞬でもよい。自分で何かすること、試してみることは、見たこともないものについて、二時間も教わるよりはずっとましだ」、というエジソンのこの言葉がすべてを物語っています。

「失敗は成功のもと」—これは不変の真理を言い当てた言葉であるということがいえるのではないのでしょうか？

我々もエジソンから学ぶことが多いのではないのでしょうか？